

放送決定

# 郷土の偉人シリーズ

ドラマの舞台は合志義塾

10月29日(日)16時5分からテレビ熊本など九州7県のフジテレビ系列局でドキュメンタリードラマ「郷土の偉人シリーズ」第25作『合志義塾〜カタルパの樹がつなぐ明日〜』が放送されます。

歴史マンガ『カタルパの樹〜合志義塾ものがたり〜』を題材として、若き教師である工藤左一と平田一十が合志義塾をつくるまでの苦悩や葛藤を描いています。主演は、工藤左一役の陣内将さん(上天草市出身)と平田一十役の石黒英雄さん。他に中原丈雄さん(人吉市出身)や吉本実憂さん、坂田

梨香子さん、秋山真太郎さんとテレビや映画でおなじみの豪華な顔ぶれの俳優が出演しています。

ドラマには地元住民も出演

ドラマには、西合志中央小の児童や地元住民など約30人以上がエキストラとして出演。撮影場所は竹迫城跡公園や護国殿など市内外で行なわれました。

記者会見では、陣内さんが「アットホームな雰囲気の中、地元の人たちが親切で撮影に入りやすかった。特に竹迫城跡公園でのシーンに力を入れていきます」と撮影への思い入れを語りました。ドラマの放送を機に、地元の偉人に思いを寄せてみてはいかがでしょうか。ぜひご覧ください。

●問い合わせ先 政策課(合志庁舎)  
☎(248)1028



①左から秋山さん、石黒さん、陣内さん、吉本さん、坂田さん②竹迫城跡公園でのラストシーン③記者会見で熱く語る陣内さん④ドラマの題材となった『カタルパの樹〜合志義塾ものがたり〜』⑤出演した地元の子どもたち



## 素敵な人生

## 素敵なパートナー



合志市社会福祉推進委員 平岡純子  
男女共同参画推進委員

早婚だった私の初めての社会参加はPTA活動でした。当時、夫は私にPTAの役員や子どもの高校進学と同時に仕事を勧めてくれました。子育て以外、何の経験も無かった私には、全てが新鮮でやりがいを感じました。

その後、天草転勤となった夫は単身赴任を選びました。夫を支え、家庭を守ることが妻の役目と考えていた私は「なぜ?」と思いました。単身赴任を選んだ夫の気持ちには、赴任先から届いた手紙で知りました。手紙には「一度しかない人生だから、お互いに楽しく」と書いてありました。単身赴任という選択は、当時医療事務として楽しく仕事をしていた私から、その楽しさを奪ってはいけないと思

った夫の優しさだったのです。

考古学を研究していた夫も、天草の海で漁具などの調査をして生き生きとしていました。先日、夫と一緒に研究していた人から「天草・海の民俗誌」という本をもらい、仏壇の夫に報告しました。その民俗誌の「産育」という章には、女性が妊娠しても、5カ月経過しないと婚家の親に報告できず、また産む場所も家の中で一番暗い納戸だったなどの記述がありました。女性蔑視の内容かと思いましたが、陣痛がひどいときは夫の禪を妊婦の腹に掛け、安産を祈るなど、その時代なりの優しさも感じました。当時、お産をする女性には家の跡継ぎを産むという誇り高い使命感があったのかもしれない。

男女共同参画の基本である「家庭・地域・職場などに良きパートナーがいれば、良き人生がある」ということは、古の昔から既にあったと感じました。

## 障がい者の雇用を促進

## まちづくり事業

## 認定第10号

9月11日、合志市まちづくり事業提案制度の第10号となる事業認定証の交付式を行ないました。

- 事業名 特例子会社誘致による障がい者雇用創出事業
- 提案者 株式会社サンコーライフサポート 橋本 一郎 代表取締役社長
- 事業内容 提案者が特例子会社の設立から運営までサポートを行ない、本市を受け皿として地域のニーズに合った障がいのある人の雇用を促進し、経済的な自立を促進する事業です。

これまで同社のグループ会社である(株)三好不動産(福岡市)は、須屋に特例子会社ぞうさんのはなを設立。ぞうさんのはなは高齢者向け宅配弁当事業を同社から移管。弁当配達時に安否確認を兼ねた声掛けを行なうなど、地域に密着した事業に取り組んできました。

橋本社長は、「これまでの実績を生かし、仕事と障がいのある人の生

活全般をサポートし、生きがいを持つ生活できる社会をつくりたい」と語り、荒木市長は「障がいのある人がきちんと給料をもらい納税し自立した生活を送ることができ、地域が必要とされていると感じられる。この取り組みを支援したい」と述べました。



左から荒木市長、橋本一郎社長、(株)三好不動産の三好修社長

## まちづくり事業 提案募集

市では、自治基本条例の理念に基づき、市民・民間の事業者・団体などからまちづくりのための提案を募集しています。

市が定める政策や施策の方針に沿った提案で、円滑に実施されると見込まれる事業を認定し、まちづくりを進めています。

●問い合わせ先 企画課 企画広報班(合志庁舎)  
☎(248)1813



## 人権よもやま話

秋号



合志市人権擁護委員 長尾隆  
ながお 隆 (みずぎ台)

人権擁護委員を委嘱されて2期目、もうすぐ6年が経ちます。その間、合志市は「全国住みよきランキング」の上位にランク付けされ、人口6万人を超える規模に発展してきました。また、グローバル化が進み、さまざまな国籍の人たちが年々増えているように感じます。私たちの身の回りにおける人権問題として、ハンセン病問題、

同和問題、いじめ、DVなどがあります。今後、グローバル化によって生じる人権問題も考えたいかなければならないと思っています。

「21世紀は人権の世紀」と言われていますが、地域のグローバル化が進む中で、異なった文化・歴

史・宗教観を持つ人たちとの軋轢(あつれき)が生まれているように感じます。生活環境の変化が進む中で、共生できる社会を築くためにも、お互いの人権を尊重しあうことが大切です。

誰しも相手のネガティブなことは気になるし、目に付きやすいと思いますが、良いところを見つめる余裕を持つことが必要ではないかと思っています。

「人権擁護」というと何か特別なことが必要ではないかと考える人もいると思いますが、肝心なことは「相手を理解する」「自分が嫌だと思ふことを他人に言わない・しない」ではないかと思えます。ただし、一方通行ではなく双方に要求されるものだと思います。

人権擁護委員としてグローバル化する合志市の住み良い社会づくりの推進に貢献するために、行政だけでなく地域の関連ボランティア団体との交流をさらに進めたいと感じています。